

2023年2月21日発行

23-08号

（http://www.jremnant.com/）

現場から（最近のニュースから）

**正解はある？**

東京大学の名誉教授で解剖学者、『バカの壁』などのベストセラーを持つ85歳の養老孟司さんが「ものがわかるということ」（祥伝社）という著書に書かれていることからの記事がありました。

養老さんは、「年を取って世間や他人との折り合いのつけ方がようやくわかってきた」と語られ、「人のことをわかりたいというのは、実は、自分のことをわかっていないということだ」と言われているそうです。なぜなら、自分は変わりやすく、自分でも自分のことはわからない。その事実に気づいていないから、「人のことをわかる」と思って「わかりたい」言うのではないかということです。「あの人は私のことをわかっていない」「誤解している」と言うのも、その前提として、誤解ではない「正解」があるからだと言われます。人は変わるので、「正解はない」のに、「正解」があると思うので「誤解だ」と考えるのだと言われます。

誤解を解こうとしても、たいていは徒労に終わると言われます。養老さんが講演しても、聞いた人の反応はさまざまで、明らかに誤解だということもあるそうです。しかし、それを言っている人は「それが正解だ」と思っているので、それを解くことはできないということです。「誤解の多くは、放っておくと自然に解けて消えていきます。どうでもよくなるんです。」ということです。相手も変わっていくし、常に正解があるわけではなく、状況は瞬間、瞬間で変わり、人の機嫌も変わるので、いつでも使える方法はないから、放っておくのがいちばんよいということです。人によって、時間によって、場所によって、すべて状況が違うわけですから、一般化ができないということです。（２月１６日婦人公論.jp＜養老孟司「それは誤解」と説明しても、相手は相手で「自分が正解」と思っているからたいてい無駄。誤解は放っておいて自然に消えるのを待つべし＞より）

ひとりひとりが正解だと思っていることがあります。それは他の人から誤解だと言われても、なかなか受け入れられないでしょう。ほんとうは、自分が正解だと思っていることも、昨日と今日と変わってきているのですが、そのこと自体に、自分は気づいていないことも多いかもしれません。「絶対」ということがないという前提なら、記事で言われているように「正解はない」というのが事実でしょう。しかし、「絶対」があるとすれば、その絶対に基づくことが正解で、誤解は正解に基づいて修正すべきです。ただし、人間には絶対はありません。どこに絶対があるのでしょうか。そのことについて、あなたにお分かちしたいのです。

救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になり、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをして、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。

それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。

神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に出会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス･キリストです。イエス･キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してくださり(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(Ⅰヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス･キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。

もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス･キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス･キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを

認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の

神様として受け入れます。私の罪を赦してくださり、私を救ってくださったことを感謝

いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・

キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください